

Windows 10 (ver. 1803)の重大なトラブルから奇跡の回復

全く参りました。

6月2日に更新プログラム(1803)をインストールして、やれやれと安心していたら、今まで出来ていたことが出来なくなっています。

慌てて関連するフォルダのアクセス権を設定し直したら、事態は極めて深刻になりました。身に覚えのないエラーメッセージが出てそれが堂々巡りするし、スタートボタンが左クリックに反応しません。右クリックには一応反応しますが、やたらに反応が遅い。それに IE11 が起動出来ません。

頼みの綱は復元ポイントの利用だということで、問題の更新プログラムをインストールした時点（何と復元ポイントがそれしか無いのです）に戻そうとしましたが、失敗。

別の PC でネット情報を調べて、Powershell の修復など試みましたが、ことごとく失敗。

一晩寝て考えてみました。ヒントになったことは：

- 1 確か MS の記事ですが、アクセス権の設定を変更するとトラブルになることがある。
- 2 Powershell の修復が全く出来ないということは一体何を意味しているのか。
- 3 やむなく作成した別のアカウント（Administrator）では全く問題が無い。

ということでした。

もしかするとアクセス権の設定をやり直せば、何とかなるかもしれないと考えたわけです。そこで、丁寧に全てのフォルダについて（上流から）出来る範囲でアクセス権をなるべくオープンに設定し直してみました。

特に印象的だったのは OS (C:)の一番下になる「ユーザー」のアクセス権の再設定で、随分時間が掛かりましたが、警告は出ませんでした。

こうしてダメ元で設定をし直した後、再起動をしてみると、何と復活したのです。

IE11 もちゃんと動きます。本当に心底助かったと思いました。

たぶんこういう事だと思います。Windows 10 の場合、更新プログラムをインストールすると、大げさに言えば全く別の OS になってしまうということです。バージョンも変わります。この点が今までの Windows 7 などと違うところで、XP のサービスパックでもこんな事は無かった。

つまりアクセス権の設定を基本からやり直さなければならないということになります。

これはこちらにとっては全く迷惑なやり方です。

そういえば、今回の更新プログラム 1803 をインストールした後に、「これが今回の新しい機能だ」という趣旨のデモンストレーションが始まったので、ただの更新プログラムにしては妙だなと思ったのですが、それはこういうことが原因だったわけです。

PC をネットに常時接続することを前提としたオンラインベースの新機能はセキュリティに相当神経を使わなければならないので、既存のフォルダのアクセス権を安全側に変更するというのはおおいに有り得ることです。

Windows 10 の更新プログラムは Windows 7 と違ってそう頻繁には出ませんが、いったん出ると大規模な更新になるようです。本当に注意しなければなりません。

Windows 10 はこちらにとって本当に困った OS です。失敗作と言ってもいいのではないかと思います。

スマホの世界はスマホに任せておけばいいし、1 台の PC で何でもかんでもやろうとするなんて今時ナンセンスです。

以上